

本件は、大阪府政記者会、大阪市政記者クラブ、吹田日刊記者クラブに同時資料提供を行います。

報道関係各位

生きているミュージアム NIFREL

ニフレルでナイトツアー「夜にふれる」を開催。 目隠しして生きものの気配を感じるドキドキ体験も！

大阪府吹田市「EXPOCITY」の生きているミュージアム「NIFREL（ニフレル）」では、閉館後の夜の館内を体感するナイトツアー「夜にふれる」を開催します。開催日は2018年7月22日(日)、8月5日(日)、26日(日)の計3日で、これに参加する小学生以上の方(小・中学生は18歳以上の保護者同伴のこと)を各回15名、合計45名様をメールで募集します。締め切りは7月12日(木)着信有効です。



夜間に上陸したイリエワニ
(昨年のナイトツアーの様子)



真っ暗な館内を懐中電灯で生きもの観察
(昨年のナイトツアーの様子)

このツアーは、薄暗い夜のニフレルを、参加者が懐中電灯を持ってキュレーターと一緒にめぐるツアーです。岩陰に隠れる魚たちや、眼を開けて眠るカメレオンがいる一方で、夜間も活動しているサメやクラゲなど、生きものたちの夜の生態をキュレーターが解説します。

さらに、オリや柵がなく生きものたちが自由に暮らす空間に入り込む「うごきにふれる」ゾーンでは、参加者にアイマスクで目隠しをして感覚を研ぎ澄まし、生きものたちの鳴き声を聞いたり、動きを感じていただく、ニフレルならではの“感性にふれる”特別なイベントです。



ホワイトタイガー(上)とアナホリフクロウ(下)の
デザインのアイマスク

ニフレルのナイトツアーは昨年の夏に初めて開催し、今回が3回目です。ご参加者にはアイマスクをしての感性を大事にした内容や、昼間は見られない生きものたちの様子が見られる特別感が好評でした。

【参加者募集要項】

- 《開催日時》 2018年7月22日(日)、8月5日(日)、26日(日) 計3日
いずれも20:00~21:15(予定)
※7月29日(日)、8月19日(日)にもパスポート「ニフレルパス」をお持ちの方
限定で開催します。
- 《対象》 小学生以上(小・中学生のご参加には18歳以上の保護者同伴が必要)
各回15名 ※1組につき3名までご応募できます。
- 《参加費》 1,500円(税込)
※生きものデザインのアイマスク付き(デザインは選べません)。
※ニフレル入館料が別途必要です。
- 《応募方法》 下記の①②③④を明記のうえ、下記の専用アドレスにお送りください。
専用アドレス:night_tour@nifrel.jp
①代表者の氏名(ふりがな)、年齢
②郵便番号、住所、携帯電話番号
③同伴者の氏名(ふりがな)、年齢
④参加希望日(1日のみ)
※メール1通につき、3名様までの申し込みが有効です。また、同一開催日の
重複申込みについては、2通目以降無効となります。
※募集にあたって収集した個人情報は、抽選およびメールの返信など、
本イベントに関する目的のみに使用します。
- 《締め切り》 2018年7月12日(木)着信有効
- 《当選発表》 厳正なる抽選を行い、7月13日(金)に当選者のみにメールでご連絡し、
参加証を郵送いたします。
※記述事項に不備がある場合は、抽選の対象外となります。
- 《お問合せ》 NIFREL事務局 0570-022060(ナビダイヤル)
- 《スケジュール》 20:00 エントランスにて受付、ご挨拶
20:05 「いろにふれる」から各ゾーンを順にツアー開始
20:45 アイマスクを着用し、「うごきにふれる」へ
21:00 アンケート
21:15 終了
※スケジュールは都合により変更する場合があります。
※ナイトツアー中の写真撮影はお断りしております。あらかじめ
ご了承ください。

NIFREL × 装苑

S O - E N

2018

特別展 生きものとアートにふれる展

2018.7/19 thu --- 2019.1/6 sun

ニフレルの生きものたちからインスピレーションを受けたアーティストによる「生きものとアートにふれる展」も今年で3回目を迎えました。

今回は、プロモーションアンバサダーのSUMIREさんも

モデルとして活躍するファッション誌「装苑」さんのご協力のもと、

3組のアーティストとコラボレーション。

さらに個性豊かな「生きものとアートにふれる展」に、ご期待ください。

このページに掲載されている作品は今回開催する「生きものとアートにふれる展2018」の実際の展示とは異なります。



う
の
あ
き
宇野亜喜良



仕立て屋のサーカス

circo de sastré

二人の音楽家・曽我大穂とガンジー、服飾家・スズキタカユキ、照明家・渡辺敬之、制作プロジェクトチームで構成される現代サーカスグループ。2014年より活動開始。青山スパイラルホール、金沢21世紀美術館、また、スペイン、インドネシアでの公演を開催するなど、国内外で活動している。



Kotori Kawashima

写真家。1980年生まれ。主な作品に『BABY BABY』、『未来ちゃん』、『明星』、『ファーストアルバム』、私家版写真集『道』、谷川俊太郎との共著『おやすみ神たち』、台南ガイドブック『愛の台南』など。最新刊は浅田真央フォトエッセイ『また、この場所で』、『未来ちゃん』で第42回講談社出版文化賞写真賞、『明星』で第40回木村伊兵衛写真賞を受賞。8月26日まで、入江泰吉記念奈良市写真美術館で写真展『つきのひかり あいのさざし』開催。



Tepei Kaneuji

1978年生まれ。日常の事物を収集し、コラージュ的手法を用いて作品を制作。彫刻、絵画、映像、写真、パフォーマンスなど表現形態は多岐にわたり、一貫して物質とイメージの関係を顕在化する造形システムの考案を探索。個展『金氏徹平のメルカトル・メンブレン』(丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、2016)、『四角い液体、メタリックなメモリー』(2015)、『Towering Something』(2013)、『溶け出す都市、空白の森』(2009)など国内外での展覧会のほか、舞台美術や装丁も多数。自身の映像作品を舞台化した『TOWER』を京都国際舞台芸術祭(2017)や六本木アートナイト(2018)で発表。2018年は越後妻有アートトリエンナーレへの参加や東京、台北での個展を予定。



Aquirax Uno

1934年生まれ。主な著書に『宇野亜喜良の60年代ポスター集』『サロメ』『少女からの手紙』『奥の横道』『MONO AQUIRAX+』『宇野亜喜良クロニクル』『宇野亜喜良AQUIRAX WORKS』などがあり、絵本に『あのこ』(今江祥智著)、『白猫亭』(寺山修司原作)などがある。紫綬褒章、旭日小綬章受章ほか受賞多数。5月には新作個展『宇野亜喜良『ノスタルジア』展』を開催。9月17日まで、東京の「印刷博物館P&Pギャラリー」で開催の『グラフィックトライアル2018 - Passion -』に参加する。



川島小鳥+金氏徹平



詳細は7月10日頃にお知らせ予定です。

本件に関する報道関係のお問い合わせ

ニフレル PR 担当：田井、西前

TEL：06-6876-2204

FAX：06-6876-2235

MAIL：nifrel.pr@nifrel.jp